

# 齋藤いくまを国会へ!

2017年10月2日  
No.494

Tel 03-3651-4861  
mail\_cn001@zengakuren.jp  
http://www.zengakuren.jp/

全学連(齋藤郁真委員長) 書記局通信

## 10・1 ロシア革命集会に790人!

### 10・1 ロシア革命100年 青年・学生 力で21世紀を



## 齋藤いくまが衆院選立候補宣言

### 10・1ロシア革命100年集会 齋藤いくま衆院選立候補宣言

集会に参加されたみなさん、お疲れ様です。全日本学生自治会総連合といって、全国で学生運動をやっている団体の委員長を務めています、齋藤いくまと申します。今回の解散総選挙において、東京8区・杉並区より出馬します。ここに集まれたすべてのみなさんに、共に闘うことを訴えたいと思います。

今回の選挙、多くの方が「正直どう考えていいのかよくわからない」といいます。だけど、私は今回の選挙の構造は実はすごくシンプルだと思っています。安倍政権は5年前、アベノミクスについて「トリクルダウン」ということを言ってまず企業が儲ければ労働者に利益が落ちてくる、株価が上がれば賃金が上がるかのようなことを言っていました。しかし、誰もが知っているようにこれは破産しました。森友や加計事件などの腐敗も暴露され、自民党・安倍政権が追いつめられるなか、昨年から今年にかけて、自民党とケンカする形をとって「新しい勢力」として小池百合子が登場しました。そして今、「改憲賛成」の議員以外は「希望の党」には入れないといって政界再編に乗り出しているわけです。つまり、今回の選挙は支配者たちの側からすれば賞味期限切れの自民党から希望の党を中心とした勢力再編をし、改憲へ万全の準備を整えていよいよ朝鮮戦争に踏み出す、そういうケンカを私た

ちに売っているということだと思います。選挙後、11月5日にはトランプが日本に来ます。この選挙の行方は東アジア、ひいては世界の運命を決めることになるだろうと思います。

だけど、ここで私が強調したいのは安倍政権・支配者の側の問題ではありません。森友・加計事件で安倍政権の本当の支持率はやはり20%程度にすぎないことが明らかになりました。にもかかわらず、なぜ野党が支持されないのか。なぜ安倍政権はあれほどの規模の税金横領に手を染めても監獄に送られないのか。支持されない野党が共闘する前にそもそもなぜこんなことになっているのか、ということの分析と総括がずっと求められていたのではないのでしょうか。戦争・原発・差別・教育・労働問題…社会に怒りはあふれてる。こんな社会はクソだって、みんな言っている。政府は信頼されていない。でも野党も信頼されていない。そのなかで差別・排外主義と同時に福祉を語る「改革保守」という名の極右が台頭する。このような政治の状況はけっして日本だけの問題ではありません。アメリカ・トランプ大統領に象徴されるように、世界中で同じことが問題になっているように思います。

問われているのは古く、だけど新しい課題です。100年前、レーニン是有名な著書『帝国主義』のなかで「社会排外主義」という言葉で第二インターナショナルの腐敗を弾劾しました。この「社会排外主義」という言葉が表しているもの、実は「自国第一主義」と似ていませんか? 自国の労働者の雇用・生活を守るために他

国を攻撃し、戦争や植民地政策を正当化・容認する。第一次世界大戦はその果てに各国の社会主義を名乗る政党の賛成によって始まったことを私たちは思い出すべきです。ロシア革命はこの世界戦争を終わらせましたが、革命運動の歴史に新たな課題を突きつけました。私は100年前、世界を変えたロシア革命の原点を引き継ぎくとともに、それが残した課題—難しい言葉でいえばスターリン主義をのりこえる世界革命の道を歩みたいと思います。

私は、戦後の労働運動・社会運動に人生をかけて関わり、だけどソ連・中国などスターリン主義に裏切られて悔しい思いをし、本当の革命運動の道を模索してきた人たちによって育てられた人間です。資本主義が資源や勢力圏を奪い合い、再びの世界戦争へ各国の労働者を煽りあうこの時代、階級闘争の原点に立ち返った労働者政党を共に甦らせましょう。反乱は始まっています。連合執行部の安倍政権との取り引きは、現場労働者の決起によって失敗しました。10代の改憲反対は6割に上っています。「希望の党」にはみんなから絶望された連中が集まっている。人々は静かに、だけど真実を見えています。その真実を形にしましょう。ずっと社会をまわしてきた労働者民衆の力を思い知らせるときです。小さいかもしれませんが、でも本当に強い一歩を、共に歩んでください。ありがとうございました。



## 首都圏学生 II 斎藤いくま応援メッセージ

斎藤いくま出馬の報に接して二度驚いた。前進チャンネルで「中核派から重大発表」なる出馬表明を見た際には、全学連地に墮ちたりと驚愕した。なぜか「前進」を紹介してきたあくまで中核派の下部組織ではない「大衆団体」全学連であるが、ここに至って北島・鈴達両氏から首を挿げ替えた若い顔に「前進」紙とべったりおんなじ内容を言わせるのを嬉々として伝えるとはどうしたものか。「全学連は決して一派の私有物ではありません」(注1)と言っていた全学連はどこに行った、と。しかしこの失望に満ちた驚きは続報への新たな驚嘆によって打ち消された。彼の立候補声明には普段「前進」で繰り返されるお題目が飛び出し、主張に通底する骨格になってはいるが、同時に我々青年を取り巻く現状

とそれに対する怒りは「前進」よりも鮮烈に痛快に打ち出されている。レーヴィットや浅羽道明のいうバーチャル脳内観念の「二階」と生活実感の「一階」の乖離(注2)を彼はのりこえようとしている。これは小気味の悪い素乱である。

ひとつにはこの素乱は中核派なる古い党に対するそれである。きっと党内序列は高くないだろう斎藤を党は出馬させ、彼はまた党が捉え切れていない青年の現状を党自身に取り込もうとする。前進チャンネルや高校生特集号といった試みはこれの蠢動であったのだろう。ここに中核派のひとつの崩壊と飛躍が見られる。いまひとつには当然この社会に対する素乱である。戦前から戦後への激動を見、価値の素乱と創造を志向しつづけた者に石原慎太郎というオッサンがいるが(注3)、斎藤もまた新自由主義の劇的な進展をつぶさに見、立ち向かい続けた素乱者であり創造者そのものである。石原が彼の世界に追従する若者を生み出したように、斎藤は彼の行動に追従する、そして追い越そうとしていく数多の素乱者を生み出してきた。それこそが法大闘争の地平であり、これを受け継ぐ京大バリストと同学会ライブの生み出す解放区である。政治的理念と生活実感はそこでリンクして爆発する。

しかし斎藤もオッサンに片足をつっこんでいる。職革10年の重みは同時に我々学生との懸隔である。法大闘争と言われても昔の話。「29歳、学生です」と言われればたまげたなあと言わざるを得ないし、まさに学生の概念こわれるといったところである。我々は彼に「お前の言うことのここがオッサンだ」と言っただけなければならない。彼はそれを「いいよ来いよ」と受け止める度量のある男である。去る全学連大会における彼の渾身の提起の、学生とのぶつかり合いへの総括がそれを物語っている。ならば我々学生は、彼が素乱し想像してきた価値をぶち壊しながら、彼とともにあらたな破壊と素乱の狼煙を上げよう。オッサンも若者もない自由な大学を、オッサン斎藤と共に切り開こうではないか。学生の概念も新自由主義大学も朝鮮核戦争も中核派も全部ぶっ壊せ！若者の代表に素乱オッサンいくまを押し上げよう！

(注1) 北小路敏「学生運動の潮流と課題」

(注2) 浅羽道明「『反戦・脱原発・リベラル』はなぜ敗北するのか」

(注3) 森元孝「石原慎太郎の社会現象学:亀裂の弁証法」

呼びかけ 全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部 / 全国金属機械労働組合連合会 / 国鉄千葉動力車労働組合  
【事務局】 千原市中央区栗町2-8 DC会館 TEL:043(222)7207 FAX:043(224)7197